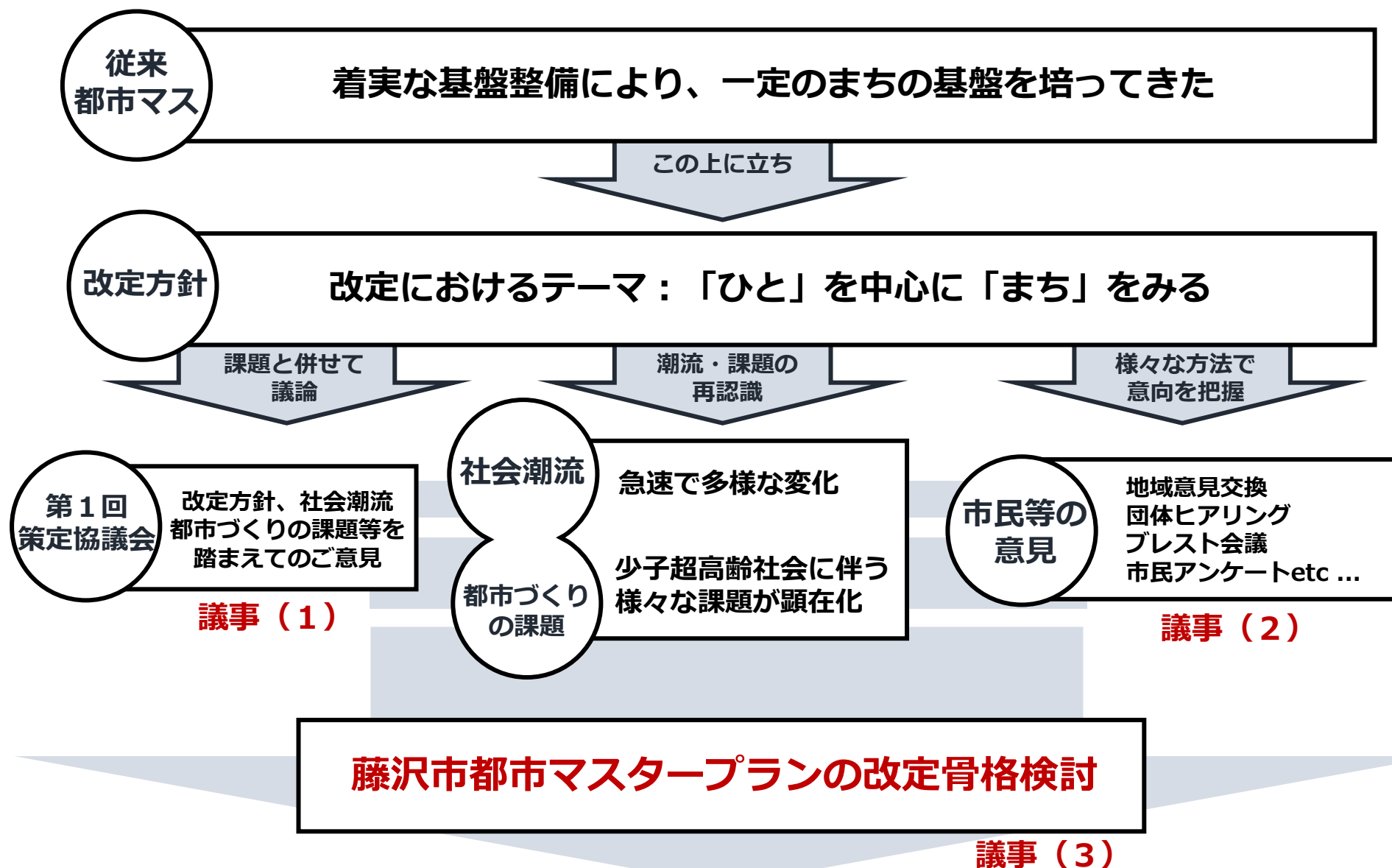




2025年（令和7年）3月31日
第2回藤沢市都市マスタープラン策定協議会
資料1

1 前回策定協議会の振り返り

本日の議題



前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
全般	ビジョンがこれから作られるマスタープランのことを指しているとする「共感」の印象が上から感じ、違和感がある。	● 改定検討にあたっては共感が得られるよう取り組みますが、改定方針のテーマとした「共感」の表現方法は違和感を感じさせないよう工夫していきたい。
	「共感」は内容だけでなく、形式やその存在そのものがどう有るべきかについて、明確な方針や哲学を持つのがよい。	
	課題からだけではなく、未来に向けた目標からのバックカスティングを検討。	● 社会潮流の変化や本市の特性、市民の意向等も踏まえつつ、本市がめざすあり方を整理しながら検討したい。
	隣接市の用途地域や都市計画マスタープランの将来図と重ね、都市基盤や土地利用、都市計画の整合性を整理したほうがよい。	● 隣接市の都市マス将来図や都市計画等を確認の上、検討したい。
都-1. 土地建物ストック活用、保全及び誘導	相鉄の新しいモールへのアクセス等連携について、上手く活用されるとよい。	● ご意見や上記の隣接市の関係に関する意見と合わせて検討したい。
	建物や地区における脱炭素化にもふれることが重要。	● 脱炭素社会を前提とした中で都市マスでの取り扱いを検討したい。
	技術の進歩に伴い、役割を終えるもの・新たな価値が生まれるものがある。モビリティ分野でも沿道土地利用としてディーラーの在り方が変化する可能性があり、郊外の藤沢ならではの新たな価値創出ができると面白い。	● 技術革新により変化する社会に対して、想定できるもの、想定できないことに対する余白の残し方なども含め都市マスでの対応を検討したい。
	住工混在箇所、住民の苦情により工場が拡張できず転出するケースもあり、事業のしやすいまちづくりをしてほしい。	● 産業の維持・充実に向けた土地利用のあり方についても整理しながら検討したい。

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
都-2. 都市のレジリエンスの確保（防災・減災・復興事前準備）	立地適正化計画で災害リスクから居住誘導区域外とした区域の将来像は都市マスで担保をしていくべき。	● ご意見の趣旨を踏まえ現行都市マスのテーマのひとつである「④災害に強く安全な都市づくり」を中心に広く検討したい。
	「防災への投資が未来につながる」ことと「日常のまちの向上が防災力の向上につながる」ような両立を。	
	復興の事前準備について、被災後だからこそできる市街地整備の将来像を描くべき。	
都-3. 外出したくなる都市基盤と移動手段の確保	交通網、道路のあり方は、自動運転技術の進展を先取りした議論が重要。	● 分野別計画である都市交通計画で方向性を示しているものもあるが、本計画ではその先を見据えた方針や視点について検討したい。
	小型モビリティのネットワークを充実し長距離移動できる都市構造の検討を。	
	バスの乗り継ぎが色々できて、目的地に向かえるとよい。海外の1時間以内定額運賃は外出しやすい。	
	地域レベルのモビリティの充実を。	
都-4. 都市の活力低下へ対応	湘南台駅は、駐車場不足や商業が弱いなどの現状がある。利便性追求だけでなく、文化施設の整備など、地に足を付けた検討がよい。	● 都市拠点の役割などを整理し、検討したい。
	稼げない都市にならないよう産業基盤についても議論が必要。	● 産業基盤の維持・充実は今後とも重要であり、今後の在り方についても検討したい。

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
都-5. 自然環境・自然ストックの減少・適切な維持管理	緑の基本計画の改定との連携はあるのか。	● 担当部局と連携しつつ対応方針（グリーンインフラ等）を調整したい。
地-1. 市民の健康や健やかな成長を支える環境の確保	細い道路は子供が遊べるメリットもあり、便利さが必ずしもよいわけではない。	● 地域のまちづくりのあり方についてご意見も踏まえて検討したい。
	土地・建物の土や緑による被覆について考えることが重要。	● グリーンインフラの概念と合わせ整理し検討したい。
	事業所の緑化率の負担が大きい。公共や住民の緑化への働きかけがきになる。	● 上記とも関連し、市街地全体の緑化のあり方も考慮して検討したい。
地-2. 活力あるコミュニティと活動の場や居場所の確保	市内に増えている外国人を取り込む多様性の視点が重要。	● インクルーシブなまちのあり方を検討したい。
地-3. 地域の資源（財産）の発掘と有効活用	活力あるコミュニティと活動の場について、コンサートホールや市民の集える大きな図書館等を考えてほしい。	● 場づくりと地域資源の活用について方向性を検討したい。
	コミュニティの活力については、自治会だけでなく商店街も含めて検討を。	● 地域のまちづくりと併せて検討したい。
実-2. 企業によるまちづくりの動きや各種の技術革新等への対応	学生にとって、市内にどういう働き口があるのかわからない。産業の魅力を観光資源と絡めるのも1つの手。	● 本市の魅力の発信について他部局とも連携したい。
	Society 5.0のデジタルデータによるサービスと課題について、市民等への情報提供と何が足りないのか、どういう結びつけがいるのかを示すことが必要。	● データ編に現状・課題を追加する。 ● 都市DX、オープンデータ化の取組をベースとした今後のまちづくり発信について検討したい。



2 市民等の意見について



2. 市民等の意見について

(1) 市民等の意見の把握について

- ・ 郷土づくり推進会議
- ・ 団体ヒアリング
- ・ ブレスト会議
- ・ 市民アンケート
- ・ その他

(2) 市民等の意見を踏まえた前提の整理

(1) 市民等の意見の把握について

郷土づくり推進会議 (令和5年度・6年度)

意見交換会の開催

【ねらい】

- ① 地区の課題の抽出
- ② 地域のまちづくりの方向性や取り組むべき事項の把握

団体ヒアリング (令和6年度)

まちづくりに関連する各分野毎の市民活動
団体、企業を対象にしたヒアリング

【ねらい】

- ① 活動内容や活動推進上の課題の把握
- ② 今後展開したい活動、まちづくりへのアイデアの把握

ブレスト会議 (令和6年度)

団体等及び公募市民による
ワークショップ型の会議

【ねらい】

- ① 市民等が共有できる将来（ビジョン）検討のためのキーワードを抽出
- ② 市民等が期待する取組のイメージを抽出

市民アンケート (令和6年度)

地域、年齢別のバランスを考慮した市民を
対象にしたアンケート調査

【ねらい】

- ① 市民の暮らしの実態と期待する暮らしのあり方の把握
- ② 藤沢市のまちの魅力と都市として望む将来像の把握

その他 (令和5年度・6年度)

その他、各種からの意見
＜例＞ 子ども・若者が感じるまちへの意見

【ねらい】

- ① 各種で行った会議やアンケート調査等で得られた意見の把握
- ② 次世代の大人となる今の子どもたちが将来のまちに期待する気持ちを把握

(1) 市民等の意見の把握について

- 令和5年度・6年度に、都市マスタープランの改定にあたってのアンケートと各地区での意見交換会を実施し、次に示すような課題やまちづくりへの意向を把握しています。

北部・西部：御所見・遠藤・湘南大庭

人口

- 若い人々が魅力や住むメリットを感じてもらえるような取り組みを
- 働ける場所が少ない

土地利用

- 農家の後継者不足、農地の宅地化や駐車場・資材置き場の混在、農業支援や幹線道路周辺の規制緩和を
- 買物不便や幼稚園不足など生活利便性の改善を

水・緑

- 宇津母持神社・大庭城址などの利活用やアクセス改善を
- 均一な使い方ではなく公園の個性を出す取り組みを

道路・交通

- いずみ野線延伸の実現を

災害

- 遠藤の浸水対策と農地の保全を

沿岸部：辻堂・鵜沼・片瀬

人口

- 少子高齢化と一括りにせず地区特性の把握を

土地利用

- 商業地内のマンション化に対する景観や土地利用に関するビジョンを持つべき

水・緑

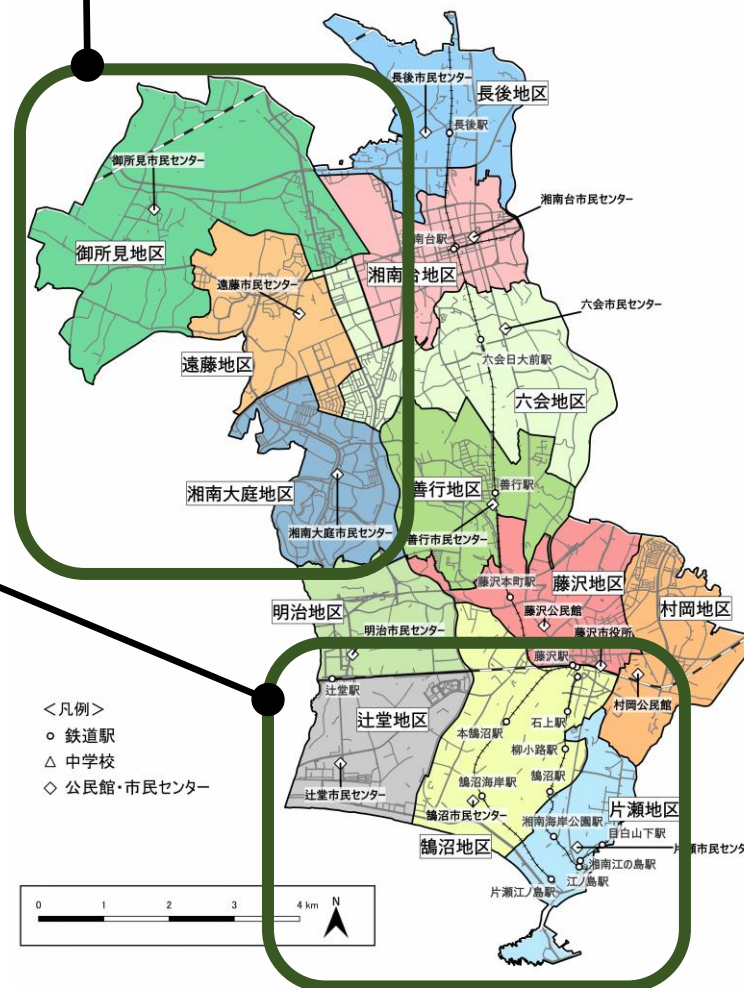
- 地域の拠点や避難場所となる公園・広場の整備・活用を

道路・交通

- JR南北の分断や駅周辺の渋滞解消を
- 歩行者・自転車の安全な通行環境の整備を
- 高齢者の移動支援を

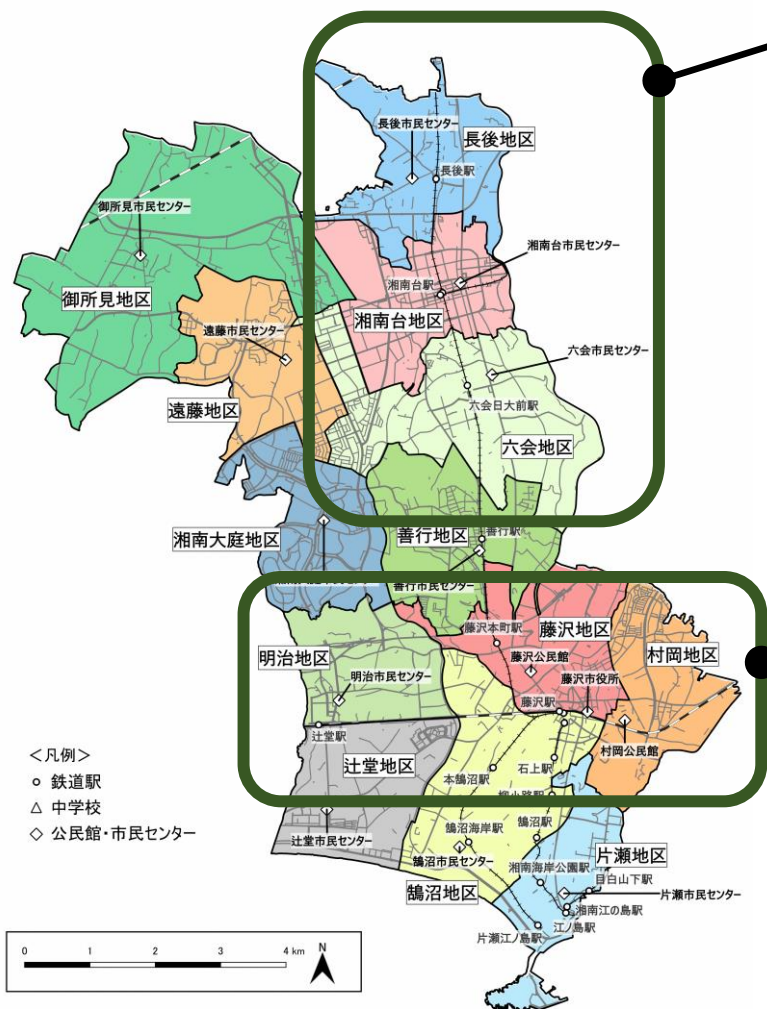
災害

- 狭あい道路が多いことから、避難路や避難施設の確保、耐震化、不燃化など防災まちづくりを



(1) 市民等の意見の把握について

- 令和5年度に、都市マスタープランの改定にあたってのアンケートと各地区での意見交換会を実施し、次に示すような課題やまちづくりへの意向を把握しています。



小田急線沿線：長後・湘南台・六会・善行

人口

- 高齢化が進むことで起こりうる行動範囲の狭小化を生じさせにくくする取組を

土地利用

- 駅周辺の空き店舗対策、店舗の誘導など賑わいづくりを

水・緑

- 湘南台公園、石川丸山谷戸公園、日大の緑地、下土棚遊水地の上部利用公園など、緑の地域資源の活用を

道路・交通

- 線路や河川による東西の分断に対し移動しやすい環境を
- 安心して歩行でき、自転車も利用しやすい道路空間の整備を

災害

- 公園の整備だけでなく災害時に利用できる避難空間を

東海道周辺：明治・藤沢・村岡

人口

- AIを活用した分析も行っていくべき

土地利用

- 藤沢宿など歴史や文化を伝承するため官民連携の推進を

水・緑

- 気候変動に対応した道路などの被覆を

道路・交通

- 渋滞の解消、歩行者・自転車の安全な通行環境の整備を
- 高齢者の移動支援を
- 地区や学区の分断に配慮した計画を

災害

- 宅地の細分化は防災面において考慮すべき課題である
- 狭小道路に面した木造の建築には防火に対する制限を

(1) 市民等の意見の把握について

①調査の目的

- 市民団体、公的団体、企業から市内でまちづくりの活動する組織について活動状況や課題、今後の展望について聴取し、都市マスタープランにおける連携によるまちづくりのあり方の検討の参考とする。

②調査概要

- 1) 調査方法：ヒアリング方式
- 2) 調査時期：令和6年11月～令和7年2月
- 3) 主なヒアリング内容
 - ①活動内容・メンバーについて
 - ②活動上の課題について
 - ③今後展開したい活動、まちづくりへのアイデア

③調査対象団体

区分	活動分野	名称
市民団体 (16)	環境保全、教育	藤沢グリーンスタッフの会 藤沢サンクチュアリ
	観光	江の島・藤沢ガイドクラブ
	教育・交流	湘南市民ワークショップ
	都市づくり学習	ふじさわこどもまちづくり会議実行委員会
	空き家活用	特定非営利活動法人すまいる まちづくりハウスみろくじ協働プロジェクト 全国空き家アドバイザー協議会 神奈川県藤沢支部
	健康	湘南ふじさわウオーキング協会
	公園愛護・交流	辻堂の民
	市民活動支援	藤沢市民活動推進機構
	コミュニティ	長後フロンティアプロジェクト
	福祉・生涯学習	アジアスマイル 湘藤
	文化芸術	藤沢今昔・まちなかアート実行委員会
	歴史文化・まちづくり	湘南藤沢文化ネットワーク 旧東海道藤沢宿まちそだて隊
公的団体 (2)	観光	藤沢市観光協会
	産業振興	藤沢商工会議所
企業 (6)	交通	交通系企業2社
	ライフライン	ライフライン系企業2社
	医療研究	医療研究系企業1社
	まちづくり	エリアマネジメント1社

③意見概要

藤沢の個性を活かし人を育てるまちづくり

- 転入者が多く、人を迎え入れる土壌がある藤沢市
- 藤沢市のアイデンティティの共有・継承を
- まちづくり活動につなげる前段階の、まちづくり教育やまちづくりを考える経験、プロセスが大事
- 市民との対話を通じて地域ごとの性格付けをしたうえで広域・長期的なグランドデザインを

ブランド 資源活用

資源活用と観光まちづくり

- 大きな観光資源だけでなく市内に点在する歴史・文化・自然資源の一体的な活用・PRを
- 藤沢で宿泊したくなるコンテンツを
- 風情や賑わいのためにマンション化への対応を
- 西北部の観光資源活用のための交通改善を
- 地域の学校や商店会等とも連携して歴史・文化の紹介を

住宅地のまちづくり

- 高齢者が孤立せず地域で生活できるようラストワンマイルの移動支援を
- 空き家の諸事情や地域性をみて、住まいのマッチングや多様な活用を（働く場や地域の魅力発信等）

住まい 安全

環境・防災まちづくり

- 子ども達が自然を学べる場、人と自然が共生する場の創造を
- 災害から守る街づくりを（避難所のみではなく）
- カーボンニュートラルや被災後まちづくりで連携を

活動・交流の場づくり

- 市民や活動団体が気軽に使え、交流できる場を
- 活動団体が一同に揃って出展・体験できる場を
- 長い目で支援の仕組みを

場と 情報

情報共有・発信

- まちづくり活動と関わる整備スケジュールなど情報発信を
- 活動やイベント等の情報発信の支援を

(1) 市民等の意見の把握について

ブレスト会議
(令和6年度)

①開催目的

- 活動団体、企業など市内のまちづくりに関係する方や公募の市民の参加により、都市マスタープランに描くべきビジョンや取組の意向について把握する。

- ① 市民等が「共有」できる「将来」(ビジョン) 検討のためのキーワード抽出
- ② 市民等が望む取組イメージの抽出(取組と連携・支援の体制・プロセス検討への活用)

②開催概要

日時：2月12日(水) 18時～20時半

場所：藤沢市役所本庁舎会議室

参加者数：41名

検討テーマ

- 1) 選ばれるまちってどんなまち
- 2) 活動や交流の舞台になるまちってどんなまち
- 3) 各地域の長所や推したい特徴を考えよう

検討方法：全参加者が3つのテーマについて話を
「ワールドカフェ方式」にて実施

③参加者属性

活動団体：20名

公的団体：6名

企業：4名

公募参加者：11名



藤沢市都市マスタープラン改定

「ブレスト会議」参加者募集！

Fujisawa Urban Master Plan
Brain - Storming Meeting

2025 **2/12** 水
18:00-20:30

藤沢市の都市計画に関する基本的な方針「藤沢市都市マスタープラン」を改定するにあたり、**多様な方々にご参加いただく「ブレスト会議」を開催するため、参加者の募集を行います。**

場所	内容
藤沢市役所 本庁舎5階 5-1・5-2 会議室	1 都市マスタープランの改定について
お申込み方法 電子申請による申込 または 藤沢市都市計画課へ申込書を提出	2 藤沢の未来を考えるブレスト！ ・藤沢市民の未来は？ ・藤沢のまちの未来は？ ・市民や企業が実践すべき取組みは？

応募条件

- ・ 藤沢市在住もしくは在勤・在学の方
- ・ 藤沢市に業務で関わっている方
- ・ 藤沢市において市民活動やまちづくり等の活動をされている方

募集人数(公募人数)
50名程度(10名程度)
※応募多数の場合は抽選

※「ブレスト(ブレイン・ストーミング)会議」として開催するもので、参加者の皆様のいくつかのグループに分けさせていただき、多様な視点から出されたアイデアを、意見交換により深めていきます。

参加申込みは **2025年(令和7年)1月28日** まで！

藤沢市電子申請システム e-kanagawa から
※申込書は藤沢市HPからダウンロードできます。 >>>

主催・お問合せ：藤沢市(都市計画課) 0466-50-3537(直通)
会議運営：(株)都市環境研究所

④意見概要

I. 選ばれるまち

藤沢ブランドの確立

- 知名度や環境、遊びなどブランド化されているもの多くあり
- 「ひと」の良さ、コミュニティも重要な要素に

魅力的な地域社会

- 子育てや教育、サービス等も良さ
- 多様なライフスタイルの実現

働き方や経済・にぎわい

- 働く場の多さ、起業、研究機関等の多様性
- 駅前の賑わいや観光振興

藤沢との出会い方

- 魅力的なイベントの開催と藤沢ファンの醸成
- 空き家を活用した魅力的なスポットの多さ

II. 活動や交流の舞台になるまち

多様な場がバランス良くある

- 何気ない小さな空間、目的を問わないフラットな空間、アクティブな空間の必要性

活動や交流、学びの目指すもの

- 住民が街を好きになる
- 世代問わず楽しめる
- 子どもが地域に開かれる
- 互いに学びを得ることができる

活動と交流の舞台になるために

- 若者の参画促進
- 現状の資源を活かした場づくり
- 利用の仕方の寛容性
- 情報発信の工夫

どんな「ひと」と「まち」が必要か

- 理解のある、責任感のある、繋がりのあるひと
- 新しいアクションが常に生まれている

III. 各地域の長所や推したい特徴

推したい長所や特徴

- 市全域で歴史・文化芸術・教育、自然、産業・観光各分野で多数の特徴（資源）が抽出
- 広域アクセス、生活も趣味も仕事も充実できる環境の存在

魅力としての「ひと」

- 新旧住民の共存、地区毎の個性と活動の多さ
- 他人を受け入れる人の多さ

人口減少時代を見据えた考え方

- 魅力を活かして住み、働く人を増やす
- 空き家を活かし負の財産から正の財産に（学び、居住、交流の場に）
- 地域の資源を活かし子ども達が地域を学ぶ次世代の育成の場に

(1) 市民等の意見の把握について

①実施概要

1) 調査目的

- 都市マスタープラン改定にあたり広く市民意見を収集する

2) 調査対象

- 市内在住の15歳以上の方3,000名
- 抽出に当たっては、居住地区・年齢に偏りが出ないように配慮

3) 調査方法

- 配布方法：
アンケートを依頼するチラシを郵送で送付
- 回答方法：
Web上での回答

4) 調査実施期間

- 2/12 (金)
～2/28 (金)

5) 回収数

- 734件
- 24.5%



アンケート依頼チラシ

● アンケートの設問

区分		各問を聞く意味／狙い
問1	回答者のふだんの暮らしの行動	・通勤・通学先、買物の場所 休日の外出先等の把握
問2	回答者の住むまちの魅力、望む暮らしのあり方 (各項目4段階評価)	・回答者が感じる地域の魅力と、望む暮らしのあり方 (ライフスタイル)の把握
問3	藤沢のまちの魅力と将来のあり方 (各項目4段階評価)	・藤沢市全体の現在の魅力と 目指すべき都市像に対する 考え方を把握
問4	回答者自身について (フェイスシート)	・性別、年代、職業、住所 (町名・字名まで)、居住 地区
問5	自由記述	・自由意見、まちをよりよく するためのアイデア等

②結果抜粋

自分の住むまち（自宅から徒歩圏）について

自分の住むまちの魅力はどんなところだと思いますか。

- 「みどりが豊か」「静かな環境」など**良好な住環境**を評価する意見が多い
- 商業環境については地区により評価が分かれる

自分の住むまちでこれからどんな暮らしをしていきたいと思いますか。

- 「静かな環境」「健康づくりのための環境」「屋外の居心地の良い場所」など**自然、健康を志向**する意見が多い

藤沢市のまち全体について

藤沢市の魅力はどんなところにあると思いますか。

- 「気候が穏やか」
 - 「都心に通いやすい」
 - 「自然が豊か」
- など**現状の暮らしやすさ**が評価されている

これから藤沢市が目指すまちのあり方として、何が重要と考えますか。

- 「災害に強い」
 - 「みどりが充実」
 - 「住宅地・商業地の充実」
 - 「市民・コミュニティ活動のしやすさ」
- などを重視する意見が多かった

②結果抜粋

自由意見

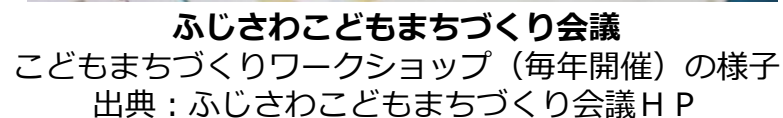
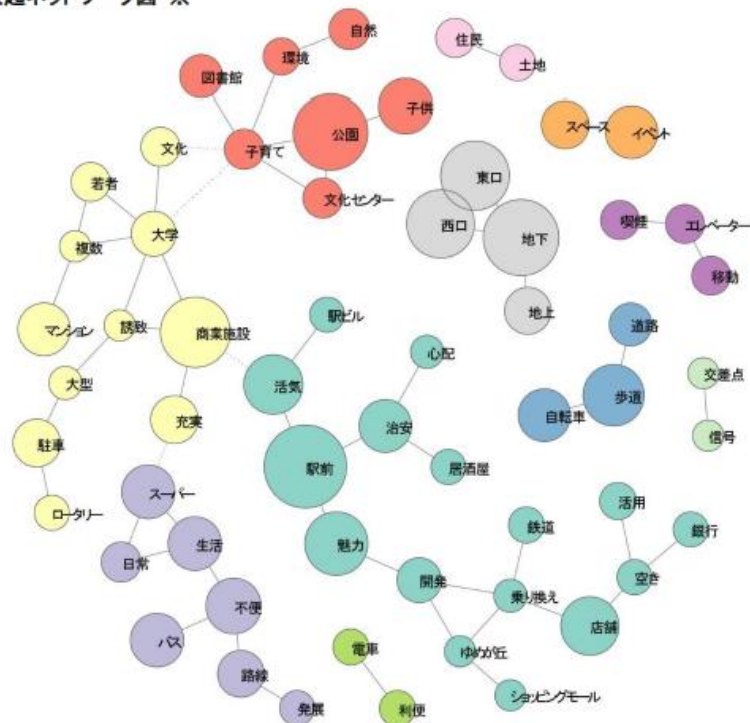
藤沢市のまちづくりに関する自由意見（抜粋）

- 住みやすさ
 - 全般として住みやすく、今後も住み続けたい
 - 緑が多く、快適に過ごせる
 - 鉄道網が充実して移動しやすい
- 道路、交通
 - 慢性的に渋滞している箇所を解消してほしい
 - 歩道が狭いため歩きにくい箇所がある
 - バス便が少なく困っている
 - 駅周辺等の駐輪場が不足している
- 防災、防犯
 - 水害、地震、津波など、防災対策を強化してほしい
- 商業、観光
 - 市北部の利便性を高め、活性化してほしい
 - 観光資源を生かしつつ、周辺住環境等との調整も適切に行ってほしい
- その他
 - 子育て環境、教育環境を充実させてほしい
 - 美術館、博物館など文化的な施設を充実させてほしい

③まとめ

- 静かな環境、自然の豊かさ、気候、鉄道網の充実による通勤のしやすさなど現状の住み心地の良さを多くの人が評価している
- 今後は良好な住環境を維持しつつ、利便性の向上、防災性の向上、コミュニティ活動の充実が求められている
- 自由意見からの課題指摘として、駅周辺の交通渋滞、バス便など地区内交通の充実などの交通対策、市北部の利便性強化を求める意見等がみられる
- その他、観光については、観光資源の充実を評価する一方で、周辺住環境等とのバランスを図ることも求められている

- ## ● アンケート調査の自由記述のとりまとめの一例





2. 市民等の意見について

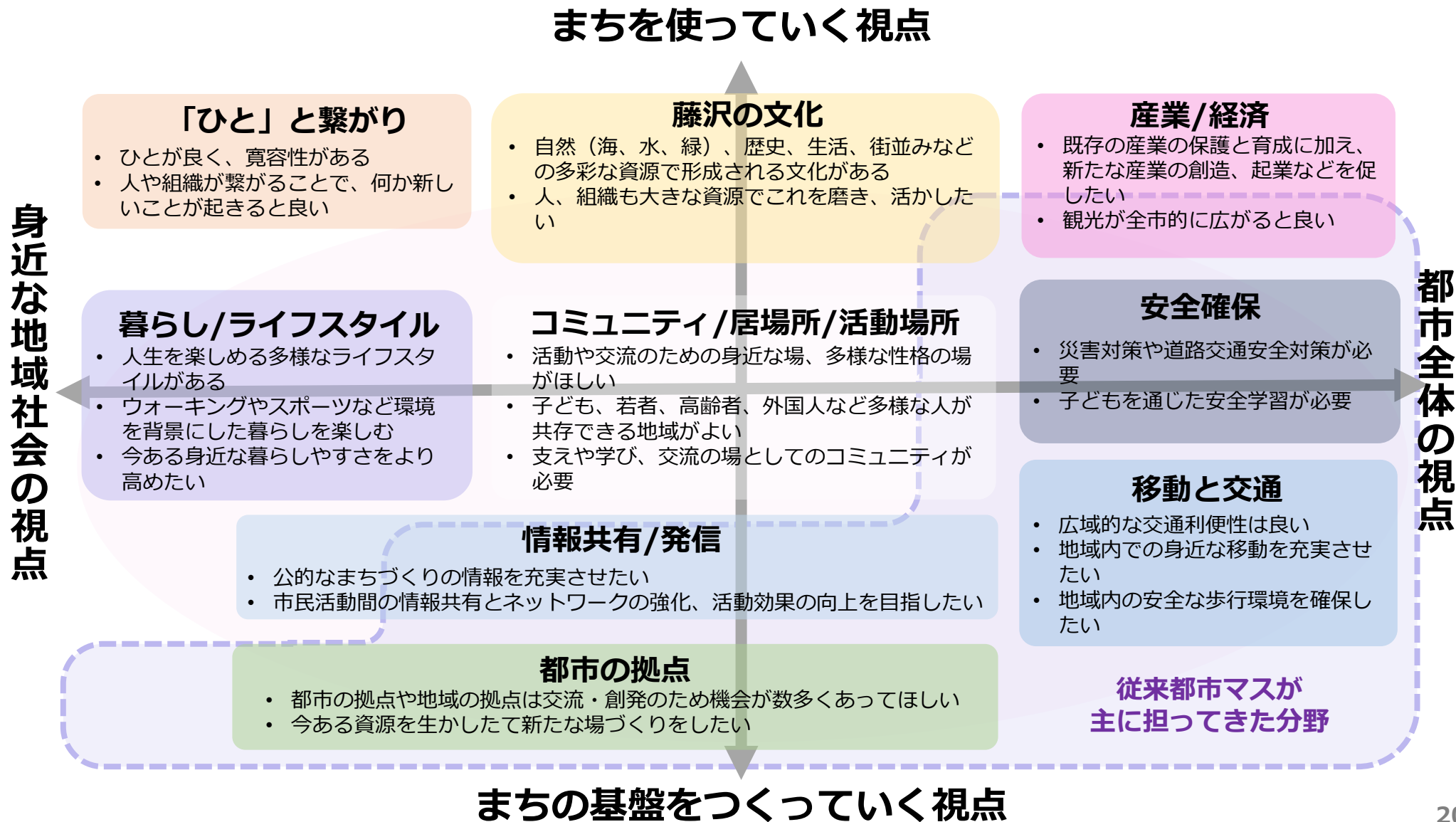
(1) 市民等の意見の把握について

- ・ 郷土づくり推進会議
- ・ 団体ヒアリング
- ・ ブレスト会議
- ・ 市民アンケート
- ・ その他

(2) 市民等の意見を踏まえた前提の整理

(2) 市民等の意見を踏まえた前提の整理

- これまでの市民参加による意見を集約し、都市の視点から①身近な地域社会の視点と都市全体の視点、②まちを使っていく視点とまちの基盤をつくっていく視点、の2軸で整理すると下記のようにになりました。



(2) 市民等の意見を踏まえた前提の整理

- これまでの市民参加による意見をAIにより集約し、共起ネットワーク図（頻出単語や文章中の単語同士のつながりを図式化したもの）で整理すると下記のようにになりました。

(参考)

